

玉原高原スノーシューハイク山行報告

【山行日】2020年 3月 7(土) 晴れ
【集 合】岩舟支所P AM 6:00
【費 用】マイカー1台 : 2,200円
【メンバー】CL:鈴木、SL大西、安西、石澤、
齊藤、津佐、鶴見、福島

【コースタイム】岩舟支所 P6:00=スキーパーク
P8:10/8:50~第2レストハウス 9:30~ブナ平
11:05~湿原堰堤 12:30/13:00~センターハウ
ス 13:20~スキーパークP13:45/14:20~きのこ
センター14:40/14:55=岩舟支所 P16:15



今シーズンのスノーシューハイク第3弾は、玉原高原を歩く計画にした。去年入笠山から急遽玉原高原に変更し、雪が深くして途中撤退したコースをリベンジすることにする。

北関東道から関越道を進み、沼田ICで降りて玉原高原スキーパークに向かう。道路にはほとんど



雪が無く、運転手にとってはありがたいことだ。スキーパーク駐車場に着くと車が少なく、コロナウイルスの影響でファミリーのお客が外出を控えたのかなと思った。一番奥の駐車スペースへ誘導され、去年からするとレストハウスにかなり近い所に止められた。準備を整えたらスノーシューを持って、リゾートセンターへ向かう。

リゾートセンターは玉原スキーパークの中心で、トイレや売店、レストランなどが完備している。ここで登山計画書をポストに入れ、トイレを済ませ

せて除雪車前の広場に移動しスノーシューを付ける。スキー場西側からブナ林の斜面を登り、キッズリフトに沿って第2レストハウスを目指す。2日前に40cmの降雪があり、新雪のブナ林の斜面を自由に歩き皆さんとても楽しそう。先頭はラッセルがきついが真っ白な雪面に自分の足跡を付けられ、10分くらいずつ交代しながら登って行く。第2レストハウスで休憩し、衣服調整して果物を食べ水分を補給する。ここから北に向かって少し下り、標高1290mを保つように山腹をトラバースして進む。見事なブナ林の中を自在にルートをとれ、スノーシューの醍醐味を存分に味わえる楽しいコースだ。GPSで確認しながら進むが、途中で標柱や案内板が雪の上に出ていると安心して進むことが出来る。



大きなブナの木の下で休憩し、デコポンや菓

子を食べエネルギーを補給する。

結構歩いたが皆さん元気そうで、新雪の雪の中を自由に歩けとても楽しいと喜んでた。尾根を



歩くようになると前方に真っ白な谷川連峰が見え、ウワ～綺麗と歓声上がり、モチベーションがさらに上がる。途中、先行者のトレースがあり、ありがたく使わせていただきブナ平の分岐に出る。ここから少し登った先から尾根を下るが、トレースは先までついているのでそのままトレースを追って進むと先行者が見えた。小ピークで先行者に追いつくと、ご夫婦の方でこの先のルートを教えてもらうがはっきりと分からなかった。お二人はここで昼食を食べるので、ラッセルのお礼を言って別れ

る。

新雪の尾根上は雪が深く、若いS藤さんとT佐さんが頑張ってラッセルし道を切り開いて行く。

ヤセ尾根で下れる場所が無かったが、ようやく下れる斜面を見つけ玉原湿原に向かって下り始める。湿原の西側の尾根を進み玉原湖畔に出ようとしたが、最後がダムの取水口付近に出て水が多く沢を渡れない。12時を過ぎお腹が空いたと言うので、休憩してどら焼きを食べエネルギーを補給する。沢沿いに戻って渡れる場所を探し、ようやく沢を渡ってダムの管理道路へ出た。管理道路を歩きダムの堰堤でランチタイムとし、お湯を沸かしてカップ麺やスープ



プを作りおにぎりをいただく。皆さんブナ平からのラッセルがきつく、少々疲れた様子だったが昼食を食べ元気を取り戻した。ここからはトレースがしっかりと有り、緩やかに登るとセンターハウスに着く。冬季は閉鎖されており、ハウス前の案内板前で記念写真を撮り、リゾートセンターに向かう。ここからも平坦な管理道路を歩いて行き、大きくカーブした先から左の急斜面を登り、ほんの少し頑張って登るとリゾートセンターに着く。広場でスノーシューを外し、リゾ

ートセンターで下山届を提出しトイレを済ませる。車に戻り靴を履き替え、着替えて荷物を積んだら帰路につく。

途中、キノコセンターに寄って温かいナメコ汁をいただき、お土産を沢山買って岩舟支所に向かう。
帰りの高速道も渋滞は無く順調に走り、予定よりも早く岩舟支所に帰着した。